

防災教育チャレンジプラン最終報告会



和歌山県立新翔高等学校

今年度、防災デザイン選択生（紙芝居班）の行動表1

3月

- 歴史史料の確認・及び教師等による調査

4月

- 関係資料の購入
- 防災についての学習
- 紙芝居の概要の検討・キャラクターの設定

7月

- 生徒による史料の調査

8月

- ストーリーの内容の検討・編集

今年度、防災デザイン選択生（紙芝居班）の行動表 2

10月

- 地元の方による昭和の東南海・南海地震の体験談
- 防災教育チャレンジプラン中間報告会

11月

- 紙芝居の本格的な制作開始

12月

- 図書館の先生と保育士の方に紙芝居の内容についてアドバイスをもらう

1月

- 紙芝居完成
- 保育園での上演

3～9月までの授業内容

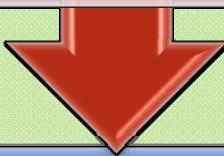
3月

教科担任及び前校長などが熊野那智大社・熊野速玉大社・熊野本宮大社に訪問し

歴史的文献などが存在するかの確認を行った。

4月

防災又は紙芝居制作に関連した書籍を生徒が選定・購入し、書籍での調べ学習を始める



5月

購入した書籍などを通じて防災や紙芝居などの学習をし、紙芝居の内容を検討、
そして内容に沿ったキャラクターの考案を行う。

6月の取組

○三大社一寺に古文書が残っていないことが判明。

事務局の回答

続行の指示

- ・近隣地区の資料をあたる
- ・大学等の研究機関の協力を得る
- ・有識者の意見を聞く等

史実はもちろんのこと、史実からどのような教訓を得たのか、地震の記録が焼失している中、地元ではどのように伝えられてきたのか… といった点に視点をもつ

○新宮市立図書館での調査

- ・先生と生徒が図書館に出向き参考になる資料がないか探す
- ・「熊野年代記」「熊野誌」等の資料を参考資料として貸し出してもらう

7~9月までの授業内容

7月

地震やそれに伴う災害の学習
他の「防災紙芝居」の研究



8月

紙芝居に関する学習
防災クイズの考案



9月

紙芝居の画材変更
オリジナルキャラクターの考案

オリジナルキャラクターのヤタガラス

紙芝居制作にあたり、オリジナルキャラクターを登場させることになり、地元である熊野地方にゆかりのある「ヤタガラス」をモチーフとしたキャラクターを考案しました。



3体のヤタガラスがそれぞれ、火事・地震・津波を象徴しており、各場面ごとにヤタガラスがマモルに防災に関する情報や知識、時には歴史的な事例を紹介して物語を進めていくことになります。



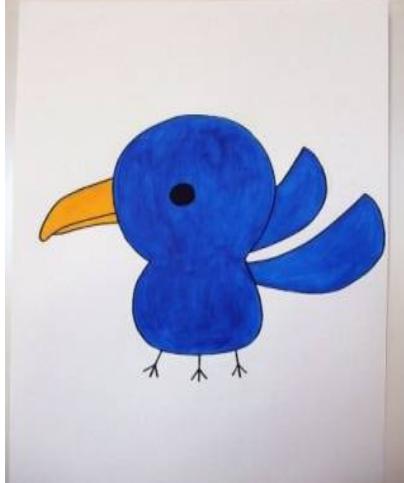
ちい（茶）

地震を象徴しており土をイメージして作成、
性格はのんきで一人称は「おいら」
マモルに地震の歴史を教える



ひい（赤）

火事を象徴しており炎をイメージして作成
性格は陽気で気が強い。一人称は「あたい」
マモルに火事についての知識や対策を教える



みい（青）

津波を象徴しており水をイメージして作成
性格は冷静でしっかり者。一人称は「僕」
マモルに津波の恐ろしさやなどを教える

10月～1月の授業内容

10月

昭和の東南海・南海地震の体験談・ストーリーの制作

11月

ストーリー原稿の改良・下絵の制作開始

12月

絵の本格的な制作の開始・クイズの完成

1月

紙芝居の完成・保育園での上演

地元の方による東南海・南海地震の体験談

10月5日、生徒11名が新宮市にお住まいの福田 順一さん
桐本 千江子さんによる昭和の南海・東南海地震についての
体験談の講演を聞きました。

地震の被害だけでなく、火事などの二次被害などの貴重な
体験談を聞くことができました。



ストーリーの概要 · · ·

ある日、幼稚園に通うマモルという少年が友達と別れ家に帰ろうとしたところから物語は始まる。

突如地震が発生し、マモルは地震の被害に遭ってしまう。

その後、揺れが収まり、マモルは周りの被害に脅え逃げ回ってしまう。

そして危険な場所に出くわしてしまいそうな所にオリジナルキャラクターのヤタガラス達が登場し、様々な防災知識や、歴史史料（火事・地震・津波）に基づいた事例を紹介していくながら避難所を目指していく

最終的にマモルが避難所にいる母と再会するストーリーです。

上演後の取り組みについて（防災クイズ）

紙芝居上演後、復習のためのクイズを行うことにしました。

紙芝居の内容や、防災に関する知識問題を○×方式で出題。

○か×の所へ移動することで楽しみながら防災の知識を身に付けられるようにしました。

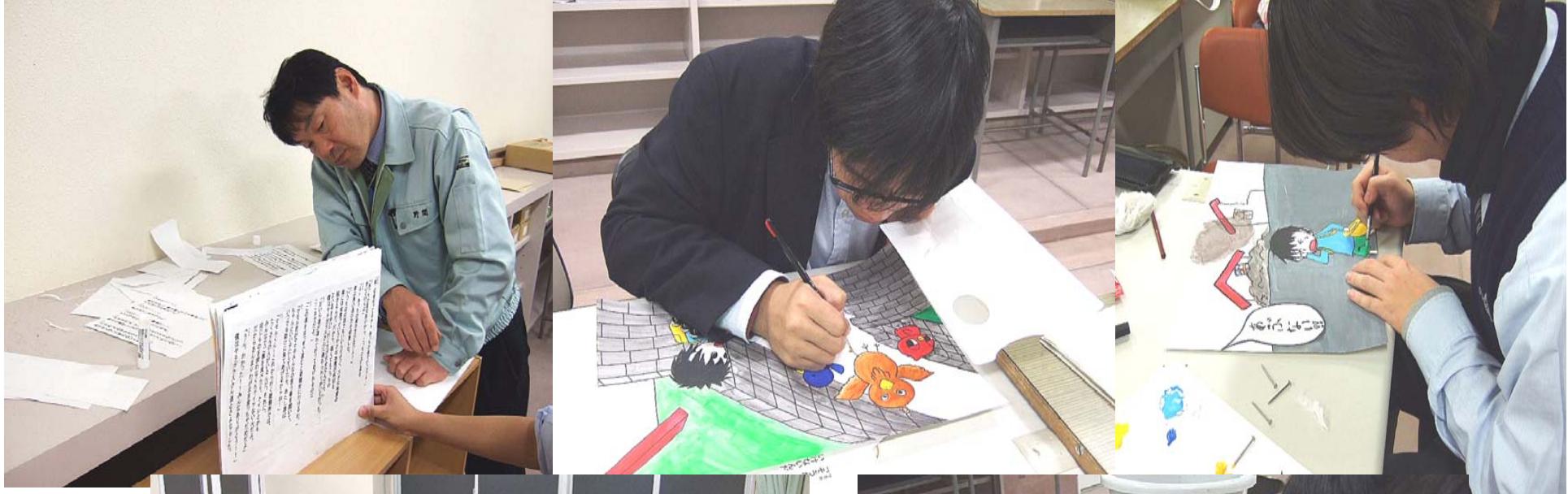
例題…

3羽の鳥さんたちは何という鳥でしょうか？

津波は地震が起きてからくる大きな波のこと ○か×か

etc...

作業風景



↑試し読みの様子



色塗りの作業

上演の様子



先生たちの感想

- ・火事や地震の場面の緊張感のある読み方は効果的だった
- ・地震についての紙芝居だったが子供達も一生懸命見ていた
- ・0才、1才児には難しいが、大きな子は興味深く見ていたと思う
- ・上演の時間が少し長いのではないかと思う
- ・津波の怖さなどを教える紙芝居もあればよいのではないか
- ・保育園での登園は大人同伴と決められているので子供1人の状況は考えにくいのではないか
- ・クイズの答えは解っていても○×の意味が分からずウロウロしてた子だったのでクイズの出題の際は、「Aの時は○」「Bの時は×」など、出題の方法を工夫してみればどうだろうか

お褒めの言葉からアドバイス、改善の指摘まで様々なご意見を伺うことができました。

成果

紙芝居の上演についての留意事項を保育士の方から
アドバイスを頂き、今後の上演に際し大変参考になった。

本校で取り組んでいる「読み語りボランティア」の生徒が
選択生の中心におり、新たな活動の場を設ける事が出来た。

高校生自らが制作することで、防災に関する知識や意識の向上
と共に、高校生と保育園児達の交流を図ることができた。

クイズについても同様で、今後改善を図り実施していきたい。

全体の反省 今後の課題…

- 紙芝居の制作に時間をしてしまい上演が保育園の一か所でしかできなかつたことが残念である。
しかし、そこでの貴重な意見は、今後の紙芝居上演に対し、参考になるものであり、来年度に生かしていきたいと思う。
- 「自分たちで紙芝居を作る」という行為が、「ものづくり」の大変さや達成感を持てたと思う。また、それが地域の子供達の役に立つという事から、愛郷の精神も培われた。



小学校用の原稿の内容

保育園用の内容に追加

- 液状化現象
- 災害用伝言ダイアル
- 過去の被害の紹介
- 今後発生する東南海・南海地震の予想被害

上演時間は、15分を予定してある

- クイズについても今後の最新情報をもとに問題数を増やしていく

今後の継続予定

防災科目を設置している本校は、今後も紙芝居の上演を継続することができる。

2年生も来年度の紙芝居の上演を理解しており、選択生の中には「読み語りボランティア」の生徒がいる。

来年度は、多少の改良を加えた幼稚園・小学校用の紙芝居を完成させ上演する予定である。

また、その取組を「防災甲子園」に申し込み発表をしたいと考えている。

